

## お父さん

小学五年 熊谷 まり佳

九月一日、始業式が終わって家に帰ると、お母さんがとても忙しそうにしていました。そして、「さっきお父さんが入院して、これから手術だから一人でご飯を食べて待っていてね。」と言われました。急に言われたので、びっくりして頭が混乱しました。お父さんはしばらく体調が悪そうで頭が痛いと言っていました。まさか入院してしまふなんて思ってもいませんでした。お父さんは元気になって帰ってきてくれるのか、とても不安でこわくなりました。その数日後、お見舞いに行きましたが病院の中には入れません。窓から手をふっているお父さんはあまり元気がなく、また不安になりました。

お父さんは、雨の日には、仕事から帰ったらすぐに車でバレエの迎えに来てくれたり、私のやりたいことを一緒にしてくれたりしました。洋服や文房具を買ってくれたり、パソコンで遊ばせてくれたり、いろいろな所に連れて行ってくれました。学校や、バレエや習字などの習い事に行けるのも、「ご飯を食べられるのも、テレビを見たり、ゲームをしたりできるのも、よく考えたら全部全部お父さんのおかげです。私はそれを当然だと思い、感謝もせず、いつも文句ばかり言っ

てお父さんを悲しい気持ちにさせていました。そして、早く帰ってきて欲しい、ちゃんと言うことを聞いて仲良くしたいと思いました。

何日かしてお父さんは無事に退院しましたが、まだ少し元気がありませんでした。でも今はとても元気で、いつも通りのお父さんにもどってくれました。なので、調子に乗ってしまい、また自分勝手なことばかり言ってしまう。でもまたお父さんがいなくなったら本当に困ります。これからは、お父さんに日頃から感謝をして、仲良くしたいと思います。私はお父さんが大好きです。